

PTA活動紹介		高P連受付番号	1
PTA(学校)名	愛知県立名古屋盲学校PTA	部門	3
活動テーマ	点字ブロック理解啓発街頭キャンペーン		
キーワード	思いやり	点字ブロック	街頭キャンペーン
開催日	平成30年3月12日(月)		
場 所	JR・名鉄大曽根駅周辺		
時 間	午前9時30分から午前10時30分まで		
参加者	保護者、教職員、卒業生 25名		
趣旨	視覚障害者が、市街地で安全に歩ける社会を目指して、点字ブロックの大切さを広く市民に呼びかけ、理解を進める。		
活動ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ノベルティ(点字ブロックの簡単な説明入りポケットティッシュ)を配布し、点字ブロックに対する理解啓発を行う。 ・メッセージ入のぼり・横断幕を持って、理解啓発を行う。 ・本校マスコットキャラクター「ナーモ」が参加して、キャンペーンを盛り上げる。 		
主体委員会名・講師名等	PTA総務委員会		

【点字ブロック理解啓発街頭キャンペーン】
3月18日は「点字ブロックの日」です。
この日に因んで、今年度で2回目の街頭キャンペーンを行いました。



【点字ブロック理解啓発週間】
平成30年3月12日(月)から16日(金)
本校校門付近での横断幕等の掲示をしました。



【街頭キャンペーンを体験して】
保護者と参加した生徒は、街頭キャンペーン後の感想として「どれだけ点字ブロックを知ってもらえたかどうかは分からないが、中には、何のためのキャンペーンかを立ち止まって聞いてくれる人もいた。通行人の方にノベルティを渡すことが目的ではなく、点字ブロックの大切さを理解してもらうことが目的であることを考えながら、キャンペーンを行わなければならないと思った。」「初めて通行人の方を呼び止めたり知らない人に声をかけたりすることにとっても緊張した。でも、勇気をもって、声をかけることができた。」
点字ブロックの理解啓発を目指した街頭キャンペーンは、本校の生徒にとっても勇気をもって街頭に向って訴えることの重要さとともに、改めて相手の立場に立って行動することの大切さを考える貴重な機会となった。



ナーモと一緒にみんなで記念撮影！
寒い日でしたが500個のポケットティッシュを配りました。

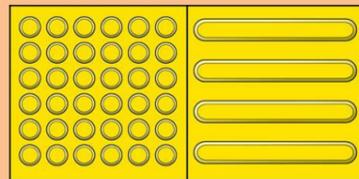


ポケットティッシュの中には、点字ブロックの意義や種類など点字ブロックに関する情報が書かれたチラシを折り込みました。

本校は、両目の視力がおおむね0.3未満又は視機能障害により、拡大鏡を使用しても通常の文字や図形が認識しにくい状態の幼児から成人までの方76名が、自立に向けて様々な学習に取り組んでいます。
本校PTAは少ない人数ですが、このような視覚障害児・者をできる限り支えようと、いろいろと知恵を出し合い協力して活動しています。

【点字ブロック】

点字ブロック(正式名称「視覚障害者誘導用ブロック」)は、視覚障害者が足裏の感覚で、進行方向や危険箇所、位置を認識し、安全かつ快適な移動を支援するために、地面や床面に敷設されている突起を表面につけたブロック(プレート)です。現在、歩道や駅、公共施設、企業等において広く設置が進んできています。



【街で目にする光景】

社会では点字ブロックに対する認識不足により、その上に駐車、駐輪、荷物の放置がされているケースも少なくないです。視覚障害者にとって、点字ブロックが重要であることを理解してもらうとともに、広く社会へ啓発周知を行い、バリアフリー環境の改善を目指す必要性を常々感じています。

PTA活動紹介		高P連受付番号	2
PTA(学校)名	愛知県立名古屋特別支援学校		部門 部門3(特別支援)
活動テーマ	アイデアグッズ作製&PTAバザー ~楽しく笑顔でつながるPTAをめざして~		
キーワード	バザー	アイデアグッズ作製	役員同士の親睦
開催日	平成30年9月22日(土)		
場所	愛知県立名古屋特別支援学校 駐車場周辺		
時間	午前10時~午後1時30分		
参加者	PTA役員、本校児童生徒、保護者、卒業生、ボランティア高校生、地域の方々 計300名		
趣旨	<ol style="list-style-type: none"> 1. 売上金で学校の教育活動をサポートしたい。 2. ゲームコーナーを作って、本校の児童生徒や兄弟姉妹にも楽しんで貰いたい。 3. 保護者だけでなく地域の方々にも学校のことを知って貰いたい。 4. PTA役員が協力することで、役員同士の親睦を深められる。 		
活動ポイント	手作り品の工夫と協力体制		
主体委員会名・講師名等	PTAバザー委員会・PTA執行部		

PTAバザーは、毎年9月の土曜日に行われます。小学部の役員がバザー委員になって、4月から準備をしてきました。月に2~3回の午前中を「作業日」に設定して、手作り品の製作やリサイクル品の収集、協賛企業やお店との打ち合わせなどを行ってきました。作業日だけでは追いつかず、自宅に持ち帰って準備もしました。当日は役員全員で各コーナーを担当します。準備から当日の販売までとてもたいへ



今年の目玉は「てづくり品コーナー」* 市販の物だと使いつらいなあ * 大きさが合わないなあ そんな「こんな物があつたらなあ」を形にしました。事前アンケートを集約して作る物を決めました。本校のお母さんたちのニーズに応えた品々です！

〈バザーのお知らせ〉

メール送信先 info@aichikoupren.org



頑張った甲斐があって、『てづくり品コーナー』は開店から大賑わい！アイデアいっぱい品々が飛ぶように売れていきました。



ハンドアーチェリー



千本引き



水ふうせん釣り

児童生徒たちはゲームコーナーを楽しみました。景品のぬいぐるみは協賛会社からいただきました。



当日は、交流校の新川高校の皆さんがお手伝いに来てくれました。ありがとう



会場には募金箱が置かれ、西日本豪雨災害への義援金を募りました。募金を呼びかけ、会場を盛り上げたPTA会長とレッドマン(校長)

毎年行っているPTAバザー。準備は大変ですが、子供たちの笑顔や保護者の方々からの「ごころうさま」の声が励ましくなっています。私たちPTA全員で一致団結して続けていきたいと思ひます。

PTA活動紹介		高P連受付番号	3
PTA(学校)名	愛知県立大府特別支援学校PTA	部門	3
活動テーマ	本校PTA活動の取組について		
キーワード	栗きんとんづくり	プラ板づくり	地域とのつながりについて
開催日	2017/12/12、2018/9/27、2018/10/26		
場 所	本校		
時 間	午後1時30分～午後3時20分まで		
参加者	PTA会員(保護者、教員)15～20名程度		
趣旨	1. PTA会員が学び合い、資質向上を図る。 2. PTA会員相互の親睦を深める。		
活動ポイント	・魅力ある研修会 ・気軽に参加できる雰囲気づくり		
主体委員会名・講師名等	PTA役員、本校教員、NPO法人「わかち・つむぎあい」 松下 直美氏(ホスピタル、クラウン)		

大府特別支援学校は、愛知県唯一の病弱特別支援学校です。本校には自宅通学生と隣接のあいち小児保健医療総合センターからの入院生が通学しています。本校の他に、愛知県内の3病院で施設内教育、病院で訪問教育を行っています。病院に入院するお子さんは退院までの期間が短いため、PTAは主に、本校に通う自宅通学生の保護者を中心に活動を行っています。そのため、無理なく気軽に参加できることをモットーにPTA活動に取り組んでいます。

<秋の味覚を楽しもう>
～栗きんとんづくり～

本校には、みかん、かりん、栗と季節を感じられる果樹がたくさんあります。そこで、学校でとれた栗を使って「栗きんとんづくり」を企画し、PTA同士の親睦を図りました。栗の収穫やレシピづくり、下ごしらえ等は先生方にも協力をいただきました。当日は、ゆでた栗を半分に割りスプーンですくう、袋に入れて砂糖を混ぜてつぶす、ラップで茶巾絞りとシンプルな作業で栗きんとん作りを行いました。

参加者の皆さんの顔は真剣そのもの、まもなく大きな栗きんとんがたくさんできました。手作りの栗きんとんのおいしさに感動しながら会話も弾み、笑顔あふれる楽しい会となりました。



<PTA活動(プラ板ホルダー、しおりづくり)>

自宅通学生や入院中の子供たちに、PTAから何かプレゼントしたいと、20年以上続いているのがプラ板づくりです。全校の子供たちが思い思いに描いたプラスチック板を集め、PTA活動日にプラスチック板を熱してホルダーを作って、一人一人にプレゼントしています。

本年度は、しおりづくりも新たに増やし、子供たちが好きな絵や言葉を書いたしおりに、ラミネートをかけてリボンを付けて仕上げました。入院中の子供たちも仕上がりを楽しみにしていて、作品にも工夫が見られました。

活動後は保護者同士で茶話会を行いました。部や学年を超えた交流を深めることができました。



講話<地域とのつながりについて>

実技<バルーンアートづくりについて>

講師:わかち・つむぎあい 松下 直美氏

講師には、障害のある方やその家族が相互交流を図り、心の健康の増進寄与することを目的に大府市を中心に活躍し、共和病院の副院長でもある NPO法人 わかち・つむぎあいの松下氏を迎え、ストレスの感じ方について、障害のある親の気持ちについてなど、分かりやすく共感できる話をしていただきました。

その後、バルーンアートでアンパンマンを作りました。短い時間で慌ただしかったものの、少しずつ表情の違うアンパンマンができました。「難しかったけど、楽しかった」という声がたくさん聞かれ、会話も弾みリフレッシュすることができました。



この他にも、保護者から毎年どんな研修会に興味があるかアンケートを取り、卒業生の話、SNSについてなど、魅力ある研修会を毎年企画しています。

無理なく、楽しく取り組むことを目標にこれからも続けていきたいと思っております。

PTA活動紹介		高P連受付番号	4
PTA(学校)名	愛知県立岡崎盲学校PTA	部門	特別支援
活動テーマ	点字ブロック理解啓発キャンペーン		
キーワード	点字ブロックの周知	生徒の安全・安心な通学	
開催日	平成30年2月19日(月)		
場所	JR岡崎駅及び名鉄東岡崎駅構内		
時間	午前9時～午前10時(キャンペーン午前9時30分～午前10時)		
参加者	PTA役員及び会員 10名		
趣旨	<ol style="list-style-type: none"> 1. 視覚障害者(全盲・弱視)にとって点字ブロックは目の代わりであることを伝え、駅の構内などの移動で、生徒が安心して通学ができるようにする。 2. キャンペーンでは点字ブロックの啓発用のチラシに、市街地の点字ブロックの上に自転車を置くなど行為が視覚障害者の通行の妨げになってしまうことを紹介し、生徒が安心して歩くことができる町作りへの協力を依頼する。 3. 活動を通して会員相互の親睦を図る。 		
活動ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔で元気に活動する。 ・子どもたちの安全を願う気持ちを一般の利用者に伝える。 		
主体委員会名・講師名等	文化部、厚生部		
<p>【活動のきっかけ】 全国で、白杖をついて歩く人が駅のホームから落ちて亡くなるという痛ましいニュースがたびたび流れています。安全対策のためにホーム柵の設置が進んでいますが、本校の生徒が通学で利用する主要な駅であるJR岡崎駅と名鉄東岡崎駅にはまだ設置されていません。 視覚に障害のある人は、駅のホームを歩く際に、黄色の点字ブロックを頼りに歩きます。ホーム柵のない駅でも安全に歩くことができます。点字ブロックの上に荷物が置いてあったり人が立ち止まっていたりすると、歩く際の妨げになります。また、市街地でも、点字ブロックの上に自転車を駐輪していたり、お店の看板が点字ブロックの上に乗っていたりして、視覚障害者が歩くとぶつかってしまいとても危険であり、安心して歩けないことがたびたびあります。そのような状況を踏まえ、点字ブロックの理解と啓発を図っていききたいという思いから、この活動を企画しました。 全国の各盲学校が「点字ブロック理解啓発キャンペーン」を行っています。その活動を参考に、本校で無理なくできる活動となるよう計画しました。</p> <p>【準備】 ポケットティッシュは500個を用意し、理解啓発用のチラシを折りたたんで入れておきました。チラシには、点字ブロックの役割や大切さを写真や文字で分かりやすく示しました。 また、点字ブロックの黄色をモチーフにした「岡崎盲学校」の名前の入った黄色いタスキを用意しました。</p> <p>【活動内容】 JR岡崎駅と名鉄東岡崎駅の担当を各5名としました。 あらかじめ、それぞれの駅に活動の趣旨を説明し、配布場所を確認しました。 配布に際しては、黄色いタスキを身に付け「点字ブロックのキャンペーンです。子供たちの安全・安心な通学に御協力ください。」などと通りかかる一般の人々に声をかけながらメッセージ入りのティッシュを手渡しました。どちらの駅でも約30分ほどで全てのティッシュを配布できました。 この取組を地域のケーブルテレビ局が取り上げてくださり、岡崎市内で放送されました。キャンペーンを行った後、学校にも問い合わせなどの電話があり、発信することの重要性を感じました。</p>			
メール送信先	info@aichikoupren.org		



〈活動後の記念撮影〉



視覚障害者(見えない人・見えにくい人)の歩行に御理解と御協力をお願いします! 愛知県立岡崎盲学校

【点字ブロックとは】
 視覚障害者誘導用ブロックは、視覚障害者を安全に誘導するために地面や床面に敷設されているブロックで、財団法人安全交通試験研究センターの登録商標である「点字ブロック」の名でも知られています。1967年3月18日、岡崎県立岡崎盲学校に近い国道2号(現:国道250号)原尾島交差点周辺(現:岡崎県岡崎市中区)に世界で初めて敷設されたことを受け、日本記念日協会より、3月18日は「点字ブロックの日」と認定されております。



点字ブロックの上に障害物は置かないでね!
 点字ブロックの上で立ち止まらないでね!
点字ブロックは視覚障害者の命綱

駅のホームでアナウンスを聞いて!!
 黄色の線の内側に
 黄色の点字ブロックの内側に

〈理解啓発用チラシ〉

【まとめ】
 今年もこの活動を継続したいと考えています。さらに啓発力のあるキャンペーンとするために、「岡崎盲学校」の文字と点字を書き込んだ黄色いのぼり旗も用意しました。この活動が、生徒たちの安全で安心な通学や生活につながってほしいと願っています。

PTA活動紹介		高P連受付番号	5
PTA(学校)名	愛知県立大府もちのき特別支援学校桃花校舎PTA		部門 特別支援
活動テーマ	高校生のためのネット社会の歩き方		
キーワード	情報モラル	親子で学ぶ	安全
開催日	平成30年10月11日(木)		
場所	桃陵高校医学講義室		
時間	10時00分～12時00分		
参加者	生徒81名 内訳 第1学年生徒 27名 第2学年生徒 27名 第3学年生徒 27名	保護者 19名 内訳 第1学年保護者 6名 第2学年保護者 5名 第3学年保護者 5名 本校保護者 3名	教員 30名 合計 約130名
趣旨	スマホの使用について理解を深め、トラブルを未然に防ぎ、適切な使用を考える機会とする。		
活動ポイント	保護者、子ども、教員と一緒に学ぶことで、情報を共有することができる。		
主体委員会名・講師名等	PTA常任委員会・株式会社教育システム代表取締役 長尾幸彦		

本校は、平成18年に桃陵高校の敷地内に併設された特別支援学校である。1学年27名、合計81名の生徒が県内各地から通学している。毎年10月にPTA研修会としてテーマを考え、外部から講師を招いて実施している。今年度は、スマホの使い方についての講座の開催を計画した。当初は、保護者のみの予定であったが、親子で学べる機会があると家庭で話をする良いきっかけになると考え、生徒の参加が可能に相談した。学校においても外部講師を招いての講座開催を計画していたので、この機会と一緒に学ぶことにした。親子、そして教員も一緒に参加することで内容を共有できる大変良い時間を持つことができた。

～講師紹介

株式会社教育システム代表取締役
ネットいじめ対応アドバイザー
情報ネットワーク教育活用研究協議会会員
大府市教育委員会 教育情報化コーディネーター
長尾 幸彦 様

愛知県立中村高校、半田市立宮池小学校など
学校での情報モラルの講演を多数行っており、
対象年齢に合わせた内容で分かりやすいです。



メール送信先 info@aichikoupre.n

～講演のポイント～

・デジタルネイティブ…スマホと一緒に大人になっていく初めての人類
・今までの「情報モラル教育」といえば…「怖いぞ」「危ないぞ」=使わせない
では、これからは？ **情報活用能力の重視**

・事例…ライン友達からこんなラインがきました。
「ぼくの部屋から月が見えない。きみの部屋からは月が見える？写真を撮って送ってこない？」
さあ、あなたはどうしますか？

権利と義務
危険性を知って
「賢く使う」

・お父さん、お母さんは、「使い方が分からない」「難しい」とあきらめずに、子どもに「どうやって使うの？」と聞いて、教えてもらいながら、子どもがどうやってスマホを使っているかを知ると良い、とアドバイスがありました。



和やかな雰囲気での問いかけにたくさんの生徒が手をあげ、笑顔で答えることができました。

【生徒の感想】

・面白くて分かりやすかった。
・写真に位置情報が含まれることを知らなかったの、知ることができてよかった。
・スマホで家のエアコンなどの電化製品のスイッチを入れることができるのがすごいと思った。使いこなしたいと思いました。

【保護者の感想】

・使わせない方向の話かと思っていたので、家でも今回の話を家族にしたいと思いました。上手く活用できるようにすると良いと思いました。
・ユーモアも交えてとても分かりやすく楽しかったです。
・なんとなく知っていることも細かく知ることができた。
・保護者の義務として活用する能力の習得を促進することは、少しずつ責任を持っていきたいと思います。
・便利さと怖さの両方を教えていただけてよかった。

講演をきっかけに「子どもと話し合う機会を作りたい」「親子共に勉強したい」という感想が多数ありました。子どもとコミュニケーションをとるきっかけにもなります。

【今後の内容への希望】

・ネットやスマホの研修は、保護者にとっても子どもにとっても、ともに今の時代にあってとても勉強になるので、来年も聞いてみたい。
・災害等に備えてトリアージの事や、救命活動の事など聞いてみたい。
・成年後見人制度について。
・今回のように生徒たちも一緒に参加できる勉強会が良いと思った。

来年度以降も充実した研修会にしていきたいです。